

十月例会御案内

(平成二十六年・通算第三三七回)

時代を刷新する会

<http://www.jidaisasshin.jp>

○御案内

十月十四日(火) 正午～午後二時半

衆議院第一議員会館 地下一階・第五会議室

議題 T P P交渉の状況と日本の対応について!

講師 馬田啓一先生(T P Pの専門家、杏林大学総合政策学部・大学院国際協力研究科教授)

T P P (環太平洋経済連携協定)について、特に日米交渉が大詰めにきております。去る四月二十三日、オバマ大統領はT P P問題について決着させるつもりで来日しましたが、日本国内の抵抗が大きく、日本政府はT P Pに必ずしも賛成できなかった。その後、甘利明T P P担当相とアメリカ通商代表部(U S T R)フロマン代表との交渉が六ヶ月も続いてきましたが、いまだ決着にいたらず、アメリカ議会では、日本抜きで進めよとの意見も出てきております。日本としては、J Aはじめ農畜産業などの反対が強く、アメリカの関税ゼロの基本方針には中々近づけないのが実情です。しかし、T P P交渉がもし決裂すると日米間の友好関係にヒビが入りかねません。そこで今回は、T P P問題の専門家・馬田啓一先生に、この問題の打開策につき御解説いただくことにしました。重要課題、奮っての御参加、お待ち申し上げます。

◎ 当日会費 四千元(昼食・講師料ほか)。

十月十日(金)までに、出欠の御連絡賜りたく。

□ 御報告

九月十一日の月例会は、朴槿恵韓国大統領の反日言動が目立つこと、また、北朝鮮の金正恩政権の動向など、韓半島情勢によく解明できない面があることから、拓殖大学客員研究員で、かつて韓国国防省北韓分析官・国防省日本担当官などを務めた高永喆先生に『急変する韓半島情勢と現状打開策』——地政学的・戦略的な観点を中心に——と題し、御講話いただきました。その要旨は、まず、北朝鮮は以前から韓・日・米に対し、言動ばかりではなく武力による挑発を繰り返しているが、今年に入ってから、弾道ミサイルの発射回数には八十二発に及ぶ。その内訳は、射程五五〇kmで韓国全域に届くスカッドが十一発、射程一三〇〇kmで日本国内に届くノドンが二発、このノドンは東京まで七分五〇秒で達する。これら八十二発だけで推定費用は

一〇〇億円といわれる。この他に、射程二〇〇〇kmのテポドン1、射程四三〇〇kmのテポドン2があり、このテポドン2ならアメリカ東海岸まで届く。北朝鮮の狙いは、①国内の結束を高める。②権力基盤の強化。③日米韓中に対する瀬戸際外交の手段、と言えよう。

大体、北朝鮮の気質は寒冷・山岳地形から、粘り強い高句麗気質で、北朝鮮人は、高句麗時代に、中国(隋と唐)の侵攻を二回も撃退・潰滅させ、自分達は中国の属国となったこともないし、朝鮮戦争でもアメリカ軍と戦い、引き分けたと考えており、戦争で負けたことがない。自負している。その上、ミサイルと核を持った今の北朝鮮軍は、自分達は強いと信じている。そこで、局地戦をやるのが、逆に全面戦争への予防になると考えている。しかし、金正日が亡くなり、若い金正恩が、果して軍を抑えきれるか、疑問がある。中国の韓国への接近もある。そのために、韓米同盟、日米同盟を一層強め、また、日韓関係も早く回復する必要がある。中国、ロシア、北朝鮮がいずれも、武器としてのミサイルと核を持っている以上、韓国と日本も抑止力として核を持つべきだ。せめて核兵器をつくる準備をするべきである、と話された。

(清原記)

▽

当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任しており、理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。

毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、安全保障部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会等の委員会があり、これまでに、政府へ一三七本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽

事務局電話(03)3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎

同封のハガキまたはFAXにて、十月十日(金)までに、着信をお願い申し上げます。

事務局FAX(03)3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

十月十四日(火) 正午～午後二時半

出・欠

衆議院第一議員会館 第五会議室